

## シンポジウム12

遺伝子染色体「遺伝子関連・染色体検査の精度管理～あなたの施設の対応は?～」

### 検査の質の保証のための人材育成 ～卒後教育～

◎白江 里佳<sup>1)</sup>

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院<sup>1)</sup>

臨床検査における遺伝子染色体検査の診断的価値は近年増大しているが、検査法の技術革新が急速なため、検査の精度管理や倫理的諸問題が問題視されている。このような状況下で、我々は、新しい技術を学びながら、質の高い検査結果を報告するよう努力しなければならない。誰がいつ実施しても同一の結果が報告できるよう作業を標準化することが求められており、精度保証の為にも人材育成は重要事項であると考えます。

当施設では ISO15189 の認定を取得しており、教育においても認定を活かした取り組みを行っている。その中で重要となるポイントは手順のマニュアル化、教育目標や進捗状況を明確にする力量評価、そして医療や検査に関する情報蒐集を継続することであると考えます。

私が担当する染色体検査は、主に培養から標本作製までの処理操作と核型解析の2点が重要となる技術である。処理操作は、手順を細かく文書化した標準作業手順書を参照し指導を行っている。手順書の利点は作業を標準化でき、手順書を参照することで手順の確認ができるため、教育担当者も基本操作を幾度と教える手間が省ける点である。しかしながら、手順書だけではカバーできない部分もあり経験を重ねていくことが重要であると考えます。核型解析については、正常核型がほぼ正確に並べられる、典型異常が認識できる、FISH 法や PCR 法など関連検査と併せた評価ができるなど、具体的な力量評価を設定し、スキル向上への指導に活用している。さらに、臨床へフィードバックができる知識を身に付ける為にも学会や研修会で情報を蒐集し、操作方法の改良や知識の向上に努めていくことは欠かせない。指導者側においても教育というアウトプットにより知識の定着化であったり、指導方法の工夫や疑問点の解決策を考えたりと成長のきっかけになると感じている。

精度の高い品質保証を継続していくことは有効的な人材育成の証でもあり、染色体検査では技術者の解析能力の習熟が特に重要となるため、指導方法を充実させ教育期間の短縮にもつなげていきたい。